

決 裁	議 長	局 長	参 事	

受付

報 告 書

平成 2 6 年 月 日

湯前議会議長 山下 力 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期 間	平成 2 6 年 6 月 2 7 日（金）
場 所	あさぎり町 せきれい館
目 的	ダムによらない治水対策の勉強会

報 告 の 内 容	<p>◆研修概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 議論の経緯、積み上げてきた治水対策及び得られる治水安全度について 2. 氾濫シミュレーションについて (昭和 4 0 年 7 月降雨及び昭和 5 7 年 7 月降雨を対象として) 3. 追加遊水地等の提案に対する検討結果について 4. 球磨川水系における防災・減災ソフト対策に対する県の財政支援について
	<p>◆主な内容（抜粋）</p> <p>◎全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「追加して実施する対策」については、早期に着手していきたい。予算要求の準備をしている。〔国土交通省 九州地方整備局〕 ・県の治水対策方針は、「家屋を守る」こと。 ・堆積土砂は全部で 8 0 万 m³。その内、平成 2 6 年度に 5 万 m³を掘削予定。未対策地区について、数年のうちに着手する。

- ・河川管理者には、スピード感をもっていただいたんな対策が求められる。
打開策は今のところない。しかしあきらめていない。

- ・森林の保水も併せて行う必要がある。

◎球磨川水系における防災・減災ソフト対策に対する県の財政支援計画

- ・概ね10年で10億円の補助金交付（市町村負担額の3分の2）

＞災害情報の提供、避難体制の強化、地域防災・水防活動・被災者支援 など

◎追加して実施する対策

- ・引堤・掘削 → 人吉市周辺
- ・掘削 → 球磨川中流部
- ・遊水地 → 人吉地区、球磨川上流地区、川辺川地区
- ・治水 → 川辺川筋
- ・ダムの有効活用 → 市房ダム

◎市房ダム関連

- ・市房ダムは多目的ダム（治水と利水）で、標高277.5m～270mの水位が治水と利水で容量の重複がある。

洪水のときには、予め270mまで水位を落とす。

洪水が発生しなかった場合は利水に影響するため、XバンドMPレーダー雨量情報を導入している。 ※水位調節は、土地改良区と協議・調整している。

- ・市房ダムの水位調節は、操作規則の変更が伴う。

◎球磨川関連

- ・球磨村渡地区は、模型実験により内水対策などの形状を決めた。

- ・「追加して実施する対策（案）」後における人吉基準地点の年超過確率は、5分の1～10分の1であり、全国と比べて低い。

◎川辺川関連

- ・相良村は、ダム関連で当時70戸の移転があった。

◎五木村関連

- ・対策の検討は、上下流バランスや対岸への影響を考えることが重要。
実現可能で責任のある対策を打たなければならない。
- ・本事業はスピード感に欠けていることを指摘。五木村では、ダム関連で2188億円が費やされてきた。[五木村 西村議長]

◎遊水地関連

- ・遊水地の対象地区は、民有地の水田が対象。場所は個人情報のため未公表。
- ・河川に堆積した土砂をないがしろにしての遊水地対策は考えられない。
>現状も堆積した部分は現地調査して維持修繕している。今後も責務として、河川の維持管理をしていく。
- ・自治体提案により、万江川、川辺川の新たな遊水地が検討され、水位低減効果は「なし」と判定。※球磨川よりも先に水位がピークとなる。

【感想】

- ・どこまでの対策が最終ゴール（目的）なのかを明確に示し、国・県・自治体がスピード感を持って検討・解決していくのが望ましいのではないかと。
完全なハード整備は多額の費用が発生し切りがない。
期間を定めてソフト整備も含めた検討が必要。
- ・主旨は勉強会であり、自分の考えや要望をする場ではなかったはずだが、大半の議員（質問者）が勉強会の進行を気にせずに持論を述べていた。
また人吉球磨全体を考える勉強会であったが、やはり自分の地元に関する要望が多かった。
持論や要望を述べたいのであれば、別の場で行うべきである。